

就職のまとめ

1 卒業生の就職状況（平成30年3月31日現在）

学 科		学校斡旋	縁故他	公務員	計
農業科	男	9(6)	2(2)	0(0)	11(8)
	女	8(8)	0(0)	0(0)	8(8)
普通科	男	8(3)	3(2)	0(0)	11(5)
	女	8(3)	1(1)	0(0)	9(4)
計		33(20)	6(5)	0(0)	39(25)

() は県内就職者数

2 卒業生の地域別就職者数

地 域	農業科		普通科		合計	
	男	女	男	女	男	女
県 内	8	8	5	4	13	12
関 東			1	1	1	1
愛 知				1		1
大 阪	1		4	2	5	2
兵 庫				1		1
香 川	1		1		2	
熊 本	1				1	
計	11	8	11	9	22	17

3 卒業生の産業別就職者数

産 業	農業科		普通科		合計	
	男	女	男	女	男	女
農 林 水 産 業	4				4	
建 設						
製 造	3	2	3	2	6	4
ガス・電気・水道						
運輸・通信			5		5	
卸・小売				1		1
金 融				1		1
サ ー ビ ス	2	6	1	3	3	10
医療・福祉	1				1	
公 務						
そ の 他	1		2	2	3	1
計	11	8	11	9	22	17

4 公務員等の合格推移

卒業年度	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
国家公務員	2	1	3	1	1	4	4	0
地方公務員	0	1	0	0	0	1	2	0
計	2	2	3	1	1	5	6	0

5 求人数の推移

年 度	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年
県 内	82	69	75	95	120	122	147	165
県 外	238	184	220	239	373	398	450	556
計	320	253	295	334	493	520	597	721

6 主な就職先一覧

地域区分	業 種	企 業 名
県 内	建設・製造業	今治造船、レクザム電子四国、双葉産業
	卸小売業	フジ、セブンスター
	サービス業	ホテル八千代、ホテル椿館、正和会、フジファミリーフーズ
	そ の 他	宇和島自動車運送、愛媛銀行、キョクヨーマリン、日本郵便、ベルグアース
県 外	建設・製造業	ダイハツ、マツダ、トヨタ、いすゞ自動車
	サービス業	山崎製パン、フルタ製菓
	そ の 他	四国旅客鉄道、間口バリュートランス、佐川急便
公 務 員 等		愛媛県警、消防署、自衛隊 防衛大学校

7 就職指導の特徴及び取組

特 徴

- (1) 求人数は年々増加傾向にあるが、増えているのはほとんど県外からの求人であり、生徒の希望とマッチしたものについては求人が回復したとは言い難い。また企業側の採用基準も厳しくなっており、一定の基準以上の生徒しか採用しない傾向がある。
- (2) 依然として愛南町内からの一次募集はほとんどなく、厳しい就職環境になりつつある。
- (3) 県内就職を希望しても、自分の希望する職種がなく、卒業時に学校斡旋で就職はするものの、数年で離職している状況が見られる。就職しても仕事に対する自信がなければ、自分の力を発揮することができないことから、仕事に対する満足感も得られるはずもなく、こうした理由で離職を繰り返せば仕事に対する意欲は低下するだけである。一度就職すれば仕事を一生懸命頑張る姿勢も身に付けさせたい。
- (4) 企業の名前に捕らわれ、仕事の内容を理解せずに就職して離職する場合も見られるので、学校で就職先を選ぶ時に仕事の内容等をしっかり理解させるなど、仕事に対する心構えを身に付けさせるよう取り組んでいきたい。
- (5) 企業は、高校生に対してコミュニケーション能力や行動力等を望んでいる。そのためには部活動などで人間関係を磨いたり、多くの資格を取得させたりすることなどが必要であると思われる。

取 組

- (1) 面接試験のときに生かされるよう、普段から礼儀や言葉遣いについてきめ細かく指導している。
- (2) 対人適性の養成や勤労体験のために、2年生の農業科と普通科総合類型との2学級がインターンシップ（現場・就業体験）に取り組んだ。
- (3) 公務員等の対策として仕事内容の研究と採用試験問題の練習に計画的に取り組ませている。
- (4) 高校でのキャリア教育、つまり職業意識指導にもしっかりと取り組むように、文科省や県教委から要請されており、就職希望・進学希望共に自分にふさわしい将来像を思い描けるように、今後とも学年に応じた進路指導を展開していく。

8 就職指導の数値目標

就職内定率 100%

- (1) 求人確保の働き掛けを地道に幅広く続ける。
- (2) 目標を持たせ、卒業後の就職を定着させるため、早期から生徒の勤労意識の啓発に努める。
- (3) 教職員の共通理解が得られるように的確な資料の提供と進路相談の対応を行う。
- (4) インターンシップや体験学習を積極的に取り入れ、より広範にキャリア教育を実践していく。